



長 崎 県
中小企業家同友会

DOYU

ニュース
21

E-mail jimu@nagasaki.doyu.jp
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

「私たち中小企業家が長崎県を牽引していく!」 ～経営を極めていく企業家集団 会勢700名を達成しよう～

女性部会・障がい者問題担当委員会 第5回例会 開催報告

日時：7月19日(火) 18:30 会場：四季の蔵 食楽亭

テーマ：諫早のうなぎで男は働きもん 女はすっぽんできれかねえ ～素敵な笑顔と出会いに感謝～

報告者：(株)食楽亭 女将 土井 美恵 会員(諫早支部)



報告者の土井さんは、笑顔が素敵で朗らかな女性です。その土井さんだから笑顔に満ちた報告になると思っていたのですが、予想を上回る内容でした。

土井さんは公務員の家庭で生まれ育ち、ご本人も幼稚園教諭になられ立派なお仕事をされていました。

しかし、結婚して食楽亭に嫁いできて環境は一変しました。今までは、商売などしたこともないのに、結婚して、「若女将」になり、社員を背負うという大きなプレッシャーの中頑張ってきた方です。正直、「すごいなこの人!」と心の底から思いました。何故なら、私ならこのプレッシャーには打ち勝てないと

思ったからです。

そんな土井さんが取り扱っている商品の一つの「鰻」のポテンシャルが凄いという話でした。ちなみに「鰻」は「すっぽん」と読みます。そのすっぽんですが、長崎県は、出荷高日本一なんです!! 日本一の出荷高のうえ、こだわりのブランドすっぽんを使用されているとなるともの凄く市民権を得ているかと思えば、実はそうでもないということです。

長崎と言えばすっぽんというイメージがない。それは何故かといいますと、宣伝・広告の方法に問題があると思います。諫早の駅前に「すっぽん」、「うなぎ」などののほりもなく、本当に名物であるかも疑問視さ



目次

女性部会・障がい者問題担当委員会 第5回例会 開催報告	1	ウエスレヤン大学 就職活動スキル講義 参加報告	18
7月例会報告	2	産業人材育成戦略策定検討 WG 参加報告	19
中同協 中小企業憲章・条例推進月間キックオフ集会および総括会議 参加報告 ..	11	2016年度 全国事務局員研修会 参加報告	19
中同協・障がい者問題委員会 参加報告	12	事務局企業訪問	20
中同協 第48回 定時総会および第1回幹事会 参加報告	13	入会・交代会員紹介	21
2016年度 長崎県産業労働部との意見交換会 開催報告	15	8月例会案内	22
2016年度 第1回 新入社員フォローアップ研修 開催報告	16	理事会議事録 抜粋	23
長崎浦上支部 本音で語り合い、仲間をつくる交流会 開催報告	17	会員消息・会員数	24



れる状況なのです。

土井さんは諫早ですっぽんが市民権を得る努力をしているのです。具体的には、地元の小学校に赴き、すっぽんについての講義を行い、子供たちにすっぽんがおいしいく、地元長崎が産地であるという事を教えるという活動をされています。そんな活動をされながら、よりすっぽんを身近に感じていただくための努力もされています。それは何か？それが「めしませこらーげん すっぽんゼリー」です。これは、すっぽんの栄養成分をたっぷりと含み、お手頃価格で子供も食べられるスーパースイーツを開発されました。開発に際して職人さんとの確執もありましたがそれも持ち前のバイ



タリティーでクリアされ、そこもすごいなあと感服しました。

いつもの土井さんと違った一面を見ることができ、正直驚きました。私のイメージでは、たいへんおしゃべりでいて、しかし、シャイな部分があって、素敵で魅力的な女性です（笑）やはり、すっぽんを食べ続けたらあんな風に素敵な女性になれるのでしょうか？

皆様もめしませこらーげん すっぽんゼリーとすっぽんで活力ある経営者になってみてはいかがでしょうか？

（文責 諫早支部 山口 大輔）

長崎浦上支部 例会報告

日 時	7月21日(木) 18:30
会 場	ギャラリーヘキサ
テ ー マ	お客様の喜びを「花」に込めて21年
報 告 者	フラワーショップ ハートリーフ 代表者 栗崎 貴子 会員



学生時代のアルバイト経験から仕事に関する考え方や取り組む姿勢を学び、その後社会人になって、化粧品会社では数字に対する意識を学び、子育てと両立する為に転職したヤクルトでは人を教える事を学び、職を変わっても多くの事を吸収し順応することで活躍さ



れてきました。

そんな順風満帆な仕事に転機が訪れたのは兄弟の花屋を手伝うことになってからです。花屋は初めてでしたが、もともとギフトを作ったりするのが好きだった事もあり、本を買ったりして独学で仕事を覚えたそうです。ただその花屋は夜の露店の為、心ない人達から嫌な思いをさせられる事も多々あったそうです。しかしある日、栗崎さんがアレンジして販売（1万円）した花をそのまま「あなたへ」とプレゼントしてくれた忘れられないお客様がいたそうです。栗崎さん曰く、サービス業はお客様から「ありがとう」と言ってもらえるのが喜びだと。

その後、社員の定着率を上げる為に昼の店舗に移行するものの、悩みの種は人材育成でした。チームでお

店を作り上げるのが大切だと考える栗崎さんにとって、仕事中携帯をいじったり、不平不満を口にしたりしてなかなか真面目に仕事に取り組まない最近の若い人の扱い方には今でも苦勞されているそうです。

むしろ言葉の通じない外国人の社員の方が、一生懸命仕事に取り組み、初めての給料日には涙して「ありがとう」と感謝し、その後右腕にまで成長するほど頑張ってくれたそうです。やがてその人も結婚を機に退職し、今でも人材育成に関しての悩みの種は尽きないそうです。

そんな悩みを緩和してくれたのが、同友会との出会いでした。様々な業種の経営者と交流を図る事で身の丈にあった勉強ができ、考えるチャンスがもらえると。そして同じ失敗を繰り返さないよう前に進みたいと決



意を語っていただきました。

(文責 出口 晃司)

長崎出島支部 例会報告

日 時	7月20日(水) 18:00
会 場	サンプリエール
テ ー マ	未来につなげる新事業への取り組み
報 告 者	(有)菅原産業 取締役 菅原 千代枝 会員



菅原さんは愛知県で生まれ、幼少期は家族経営の食堂の看板娘として育ち地元の企業に就職後、2度目の転職先のゼネコン関係の仕事でご主人と運命的な出会いをして結婚、出産を機にご主人の将来的な思いやりによりご主人の実家である長崎の(有)菅原産業で広報・企画を主な仕事として働き始めました。

当初はリーマンショックによる売上げの低迷がありましたが、諫早市のペットボトル回収事業の新事業のチャンスを掴み紆余曲折はありましたが見事V字回復、増員の為ハローワークに求人を出すとそこで障がい者雇用に出会い、同友会入会のきっかけになった中村第一副支部長とも出会いました。

以後は新会員ながら精力的に活動され長崎出島支部のアイドルと呼ばれています。

グループディスカッションの「未来の為に何をしますか?」というテーマに会員同士普段聞けない将来の計画や事業の承継、行く行くは未来の長崎、最後は地球と壮大な話で盛り上がりました。又会員の方々は産廃の話やペットボトルの再利用、ゴミの細かい仕分けに障がい者の社員の方々が一生懸命携わっている動画を見てゴミの出し方についても各テーブルで話し合いました。

又、障がい者雇用についても、できる事できない事はあるかも知れないものの、今まで思っていた偏見が少し払拭され前向きに検討したいという意見もあり非常に実のあるディスカッションだったと思います。これも菅原さんのポジティブで一生懸命な人柄が報告で心を動かしたのだと思います。

座長の中村第一副支部長と仲のいい親子の様に受け答えしておりアットホームな質疑応答でした。その中でも「障がい者雇用をして何か問題は無かったですか?」との問いについて満面の笑みで「問題はありません。むしろ助けられました。」と答えられた時、多くの会員の方は凄い人だと感動していました。

普段は3人の子を持つ優しいお母さん、子育てと仕事と同友会活動と多忙すぎる毎日、仲間からは大丈夫か体壊さないか等々と、心配されていましたが、当の





本人は好きでやっていますからと満面の笑みで返され、さすが長崎出島支部のアイドルと思いました。

又、懇親会では新しい取り組みとして班別の出席率を出し、トップの班には勝利の美酒が味わえるという企画を実行し見事我が2班が54%で優勝となり、飯田支部長よりお褒めの言葉と支部長のポケットマネーからの美酒もいただきました。また班独自の考えで懇

親会を盛り上げる為オリンピックも近いということでオリンピックにちなんだクイズを出し懇親会はかなり盛り上がりました。

オブザーバーで来られたおふたりの方も大変勉強になり楽しかったです、入会も前向きに検討しますと好感触でした。その後、二次会の席でおひとりが入会を表明されました。

同友会の良さを理解していただき増強に結び付ける報告をされた菅原さん、スポンサーや班員の方も大変大喜びです。

今回の例会は非常にアットホームで前向きに物事を考えて行動すれば必ず報われる。出会いによって人は成長する。真にそう実感しました。そしてこの事を未来に繋げ、継承して行かなければいけない。と改めて感じる例会でした。

(文責 横山 伸司)

大村支部 例会報告

日 時	7月21日(木) 18:30
会 場	長崎インターナショナルホテル
テ ー マ	官×民×創×論【カンミンソウロン】 ～ともに大村の未来予想図を描こう～
報 告 者	大村市長 園田 裕史 氏 (株)大幸企画 代表取締役 時 忠之 会員



園田裕史大村市長を迎えて時政策委員長との対談形式で、官×民×創×論【カンミンソウロン】と題して、行政とわれわれ企業家の視点から地域の発展を考えるという内容でした。同友会会員のほか、市役所職員やJ C、Y E Gからも多数のオブザーバー参加をいただきました。

冒頭、園田市長はあいさつで、同友会の旗の色に合わせて緑色のネクタイとチーフを選んできたというユーモアで会場の心をつかみました。



報告の中では、会員への事前アンケートの結果をもとに、労働力確保が大きなテーマとなりました。市長からは、労働力不足が叫ばれている現状への喫緊の対応と、長期的視野で見た対応が必要であるとの意見が述べられました。市の職員を見ても、近隣の自治体と比べて人口当たりの職員数が少ないこと、受験者減少の一方で非正規職員の増加、正規職員と非正規職員の役割分担などを考える必要があるとのことでした。

時さんから、民間企業においては、官民での人材の奪い合い、誘致企業と地元企業との人材の奪い合いなどの問題が懸念されるとの指摘もありました。市長からは、新幹線や道路整備に伴って企業誘致をするだけでなく、地元企業の活性化や、地元企業と誘致企業とのマッチングについても進めていきたいと述べられました。その他、人材の確保については、東アジア（特にベトナム）との交流を民間とともに進めていきたいと述べられました。

長期的な対応については、時さんから愛媛の同友会が実施している企業家が学校で子どもたちに自分たち

の仕事の内容や思いを伝え、働くことの尊さを教えるという未来デザインゲームが紹介され、市長からも前向きな意見が述べられました。

創業、新規開拓の支援については、市長から、産業支援センターの設立をはじめとして各種助成など市としても力を入れていきたい旨述べられました。また、われわれ企業家がどういことをやりたいのかという意識、意欲が必要であるとの激励をいただきました。

新しい町づくりについては、市長から、新幹線駅、車両基地の建設、県との合同図書館の建設、木場スマートインターの設置、空港の24時間化などのインフラ

の整備を前提に、住宅政策や都市計画を充実させ大村が長崎県をけん引していく存在になりたいと述べられました。

ディスカッション後の意見交換では、市庁舎の移転や駅前の活性化などの具体的な意見が出たほか、今後も行政と企業家を含む民間との意見交換を定期的に行う協議会の設立といった希望があり、市長からも前向きな意見が述べられました。

(文責 鮎川 泰輔)

諫早支部 例会報告

日 時	7月20日(水) 18:30
会 場	諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ	経営体験報告 会員は辞書の1ページです。第6弾 ～当社はこんな仕事をしています。～
報 告 者	(有) 溝上電機工事 取締役副社長 溝上 優作 会員 (有) タムラクレーン 営業部長 池田 和貴 会員



今回は二名の新人会員による経営体験報告をしていただきました。

溝上さんの第一印象は、周りに気を使わせる事なく気配りが出来て、みんなを楽しく賑やかに盛り上げてくれる方と思っておりましたが、それは若い時から社長の後継者としてのプレッシャーの中で育まれてきたのだと感じました。

今回の報告の中で、一人暮らしのおばあちゃんから真夜中に電気がつかないと連絡があり、すぐに駆け付けスタッフと共に電気を復旧する事で、おばあちゃんから喜ばれる！「これが自分の役目だ」との報告があり、溝上さんの地域に根付いた信頼される仕事をしたいという思いが伝わりました。

それから、お客様は勿論ですが、「まずは社員を大



切にしたい。」という思いに数年後の社長就任への覚悟が伺えました。

池田さんの報告、まずはびっくり！10代の頃の1

年近くに及ぶホームレス生活（リアルホームレスです！）に始まり、2～3年スパンでの営業→起業の繰り返し、3度の起業を経験された後、(有)タムラレーンの社長に見初められ入社。現在はトップ3のポジションである営業部長に。

社長との会話で、4度目の起業はあるのか？の質問にも「はい！」とサラリと答え、社長も「その時には俺がバックアップする！」というように非常にお互いを信頼し合った素晴らしい人間関係を構築し、いつ取

締役になっても不思議ではないと感じました。

何もかもが違ってくるように感じられる今回の報告者の二人ですが、どちらも目標、尊敬しているのが社長という事と、お客様が喜ぶもの、求めるものに応えようとしている共通点があるように思えます。

とても若く懸命に前向きな二人の報告に、楽しく頼もしくパワーをいただきました。

（文責 北島 美智子）

島原支部 例会報告

日 時	7月25日(月) 19:00
会 場	HOTEL シーサイド島原
テ ー マ	150年の歴史から見えるビジネスの原点 ～郷土愛、地元愛、人間愛～
報 告 者	(株)いろはや 代表取締役社長 中山 実津雄 会員



中山さんのご家族や社員さんやゲストも含め60名を超える方が参加されました。報告は、150年を超える「いろはや」の歴史から始まりました。

創業は安政3年。明治維新に日清・日露戦争、第一次及び第二次世界大戦など数々の変化の中でも連綿と「いろはや」という屋号で商いを続けてこられました。戦時中には物資不足のためアパレル業を離れ、旅館（観海荘）を島原市内に経営していたこともあったとのこと。時代に翻弄されながら、その時代にとって必要な会社、求められる会社、そして地域にとって価値ある会社として、歴史を刻んでこられたそうです。

そして、中山さんが代表となってからの歩みについ



てと話は進んでいきました。多くの仲間たちに支えられ、助けられながら成長し歩みを進めていく中において、矢印が自分に向いた「欲」によって招いた失敗についても具体的に話していただきました。

また、島原青年会議所など他団体での学びについてもお話いただき、組織運営の基礎や異業種の方との関わりなどの気づきもあったそうです。

お店の成長は社員の成長とともにあり、社員の成長と同調するようにお店の成長があり、人間的成長を遂げた分だけ会社・お店の躍進があるそうです。そして「スタッフは宝」という言葉をおっしゃったところにも中山さんの「愛」を感じました。更には、新しい商品を購入した翌日にいつもより気分がいい朝を迎えること、そんなお客様の「明日」を変えるのが「お洋服」であり、お客様に喜んでいただくことを提供する事が大切だとおっしゃっていたことが大変印象的でした。

パワーポイントを巧みに使いながらのステイブ・ジョブズのような軽快な話しに時間もあっという間に過ぎてしまった印象でした。

「何のために誰のために仕事をしているのか」そんなことを改めて真剣に考え直してみる貴重な機会となる例会でした。

（文責 佐野 充宏）

佐世保支部 例会報告

日 時	7月15日(金) 19:00
会 場	佐世保市民会館
テ ー マ	神様から愛される会社を目指して
報 告 者	(有)立山印刷 代表取締役 立山 浩一郎 会員



「頼まれ事は、試され事」、「返事は0.2秒」、「出来ない理由を言わない」をモットーとして日々精進されている立山さん。今回の例会報告を打診した際にも、即OKをいただき、この度の報告となりました。この姿勢、本当に素晴らしいです！

印刷業にとどまらず、「A4」1枚アンケート広告作成アドバイザーとしてセミナーを開催したり、お名前ポエム「ありがとうの詩」の販売など印刷の枠を超えて、様々な取り組みを実践されていることを報告されました。

質疑応答の途中にはオブザーバーの方へ「ありがとうの詩」を即興で書いてプレゼントするサプライズもあり、受け取られた方はとても喜んでいました。こういった事からも立山さんのお人柄が伝わってきます。

他にも、立山さんが影響を受けた中村文昭さんのCDを例会参加者全員にプレゼントするなど、とにかくサービス精神の旺盛な立山さん。普段の仕事でもこういったコミュニケーションを大切にされているのだらうなと思いました。



例会に参加された方全員が立山さんのファンになったのではないのでしょうか。他にも現会長との関係や、社員教育の事、ご家族の話などもあり内容の濃い報告でした。

(文責 山崎 秀平)

V・ファーレン長崎



応援マット

ダスキン栄進 電話 095-823-7633

瀧川 隆 会員 (長崎出島支部)

広告募集

< 4cm x 9cm >

複数月 割引	6ヶ月	12,000 → 10,000
	4ヶ月	8,000 → 7,000
	3ヶ月	6,000 → 5,000

北松浦支部 例会報告

日 時	7月21日(木) 18:30
会 場	サンパーク吉井
テ ー マ	中小企業経営者としての10年を振り返る ～創業期から成長期への経営者としての意識の変化～
報 告 者	税理士法人ウィズラン 代表社員 木竹 広賢 会員(佐世保支部)



木竹さんは、東京の会計事務所で経験を積み、佐世保に戻られた時、実家の会計事務所は危機的な状況、家庭教師で生計を立てながらの開業だったそうです。

安価で仕事を請負い、一時的に顧客は増えてきましたが、経営者は社員より仕事をこなすことが第一と考え、仕事のできな

いスタッフに不満を持ち、売り上げは増加しても利益率が落ちるという時期があられたそうです。プレーヤーとしてだけの仕事のやり方に限界を感じ、社員の仕事から経営者としての仕事を重視するようになり「うちでしか出来ないサービス」を伸ばし、業績を上げ2015年7月に北松浦支部の松永さんと税理士法人ウィズランを設立されました。



経営者として重視されている事は、①経営者としての3つの役割を意識する。監督、コーチ、プレーヤー ②誠実であること。事業継続のための誠実 ③常に想像すること。想像無では会社は進まない10年間の失敗を糧とされ「コーチングをベースに会計、税務、労務、IT、マーケティング等の知識を活用したサービスを提供することで、お客様の会社が長く健全に継続することをサポートする」を経営価値観としてスタッフ全員と共有し、企業文化を確立されました。

グループディスカッションのテーマは「会社経営で失敗したと感じた時は？」で、会員からの人事面での失敗の話が多く出、「経営は人なり」と再確認できた例会でした。

(文責 堤 直司)

五島支部 例会報告

日 時	7月20日(水) 18:30
会 場	観光ビル はたなか
テ ー マ	同友会運動と会社経営は等しく重要、 学びを実践しよう
報 告 者	(株)ヤマハマリン西九州 代表取締役社長 吉澤 健 会員(長崎浦上支部)



2009年10月、53歳でサラリーマンから、現在の会社に入社。翌月、代表取締役社長に就任されましたが、当時は社員さんとコミュニケーションをうまくとることができませんでした。個人攻撃と実績重視の経営が受け入れられず、若手社員が営業会議中に退職願を提出するなど、社長の気持ちが届かず、悩んでいました。

そんななか、経営フォーラムを機に2010年11月同友会に入会され、積極的に学び続け、良いところはすぐ自社で実践することで、徐々に社員さんとの接し方が変わっていきました。

吉澤さんは、入会当初から例会や経営フォーラムなど参加した「同友会活動」、「気づきと学び」、「社長の実践と会社の変化」を詳細に記録し、「不離一体シート」として、明瞭に整理されていました。このシートは、年度ごとにまとめられ、吉澤さんの同友会運動、会社経営の年表を見ているようで、五島支部会員から



は、「とても勉強になった」、「私も取り入れてみよう」などの感想がありました。

そんな吉澤さんですが、同友会での大きな学びの一つに2011年8月、県北ブロック例会で、福岡同友会 田浦代表理事の報告を聞かれ、「仕事の領域が明確であること」の大切さに気付き「社長の仕事の領域を明瞭にし、優先順位をつける」ことを実践されました。

「緊急性はないが重要なことは社長がやる」このことは、同友会活動のことでもあります。同友会での学びは、緊急性はありませんが、とても重要なことで、

社長がやるべきことです。

同友会に入会して6年目、現在は売上げも社員さんとの関係も順調のようですが、現状に満足せず、常に学びの心を忘れることなく、行動していける未来の吉澤さんを感じることができました。

お忙しい中、五島までお越しいただき、ありがとうございました。

(文責 設楽 誠)

青年経営者会 例会報告

日 時	7月25日(月) 19:30
会 場	老李浜町店
テ ー マ	青年経営者会OBとの懇親交流例会



青経OB会員の先輩方と現会員との懇親交流例会を開催しました。

毎年3月の春分の日に青年経営者会(以下、青経)は唐八景にてハタあげ大会を行っているのですが、今年のハタあげ大会が記念すべき30回目ということもあり当日は多くのOBの方にお集まりいただきました。そこではハタあげ大会が始まったきっかけや、青経の歴史などを教えていただきました。先輩方との交流をハタあげ大会だけで終わらせるのはもったいないと思い、今回の交流懇親例会を企画しました。

例会には永池泰典さん、中村政次さん、松本実文さん、浜口宏さん、伊藤浩義さん、池田義徳さん、西村浩文さん、そして青経と縁の深い吉澤健さんにお越しいただきました。(佐藤研二さんにも出席いただく予定でしたが、急用のため急遽欠席となりました。)

例会の流れは、懇親交流を強く意識して企画しました。報告があつてグループディスカッションという流れではなく、初めから各テーブルに分かれて食事をしながらみんなで話をするスタイルにしました。

各テーブルに分かれて「青経の存在意義」「青経に



入っていて良かったと思えたエピソード」「青経だからやって欲しいこと」などをOBの方に話していただき、現会員が質問をしていく流れでした。その当時の会員同士の面白かったエピソードや仕事の相談や切磋琢磨、そうやって築いてきた絆が今でも強いということに憧れました。私も今の自分たちの世代の色をもっと出して、枠にとらわれずに我ら世代の青経をみんなで作っていこうという思いが強くなりました。

二次会は山口憲男さんのお店で行いました。例会とはまた違った雰囲気の中、いろんな表情が見られたと思います。三次会は分部会員のお店で行いました。

当日島原で県の例会委員会と例会に参加された山口憲男さんも駆けつけてくれました。

青経会長としてやりたかった例会の一つが無事に盛会のうちに終わり、充実感と安堵でした。例会を企画するにあたり相談させていただきました中村政次さん、また当日例会をスムーズに運営できるように協力してくれた現会員の皆さん、ありがとうございました。

(文責 橋本 裕次郎)

ダイヤモンドクラブ 総会報告

日 時	6月23日(木) 18:00
会 場	長崎シティーホテル アネックス3



会長 富永 英則

一年の月日の流れとは本当に早いもので、ダイヤモンドクラブ総会を開催しました。

会場は、岩崎さんが新しく所有された「長崎シティーホテル アネックス3」で、出席者は18名。今回初参加は、諫早支部の高橋さんと佐世保支部の江口さんと村山さんでした。

ダイヤモンドクラブは、会暦20年以上の方で構成されており、昨年度は諫早支部、今期は佐世保支部チャーターメンバーの皆さんが続々と入会され、現在の会勢はなんと58名です。長崎同友会の歴史、拡がり(支部づくり)を強く感じました。(代表理事経験者・現役の代表理事も構成メンバーです。)

今回、今後の活動の活性化を見据え、「副会長を1名から複数名へ」と規約改正を提案し、無事承認され



ましたので、岩崎さんと松尾照美さんを推薦し、合わせて承認されました。

今回、案内時の返信と懇親交流会でのひとり一言で「同友会の更なる活性化に向けて、我々の役割とは？」と意見を出していただきました。

「後継役員の育成に傾注し、若い世代の皆さんの出番を増やせる様にサポートに徹しましょう！」という意見から「我々はOBではない、現役だ！先頭に立って例会に出席し、背中を見せることで同友会のすばらしさをもっともっと伝え続けよう！」という熱い意見もいただきました。

皆さん、「今があるのは同友会と同友会の仲間のおかげと」口を揃えて言われていたのがとても印象的でした。また、今回は慶祝対象の皆様も多かったことも非常に盛り上がった要因のひとつだったと思います。

島田前会長のお元気なお姿にまだまだ頑張らねばと思い、金子さんの代表理事時代のご苦勞には本当に頭が下がりました。また、諫早支部馬場支部長には急な司会のお願いにも関わらず、たいへん盛り上げていただきました。そして岩崎さん、素敵な会場ありがとうございました。

皆様、本当に本当にありがとうございました。

佐世保支部 村山 隆之

同友会に入会して今年で21年を迎えます。ダイヤモンドクラブに所属するには、20年以上の会歴が必要です。今回生まれて初めて参加させていただき大変光栄でした。

私が入会した頃の代表理事だった金子さんや昔から心やさしい島田さんなど沢山の先輩方とお会いすることが出来、本当にすばらしい時間を共有することが出来ました。

入会した当初は、すばらしい先輩方のように、人前でお話や司会、例会での報告など自分も出来るようになるのだろうかと不安で一杯でした。そのような昔の新鮮な思いが、今回のダイヤモンドクラブの総会で蘇りました。

何かとアドバイスしてくださった先輩方のように、

これから私が後に続く方々へお手伝いしなければとの思いが強く沸いてきました。

参加いただいた先輩の皆様、本当に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。これからもご指導よろしくお願いいたします。



中同協 中小企業憲章・条例推進月間キックオフ集会および総括会議 参加報告

開催日時：6月7日(火) 13時～17時 会場：衆議院第一議員会館 大会議室

代表理事 松尾 慶一

会議に先立ち、民進党 副代表 高木義明 衆議院議員が来場していただいたので10分前だがご挨拶をいただいた。同じく北村誠吾 衆議院TPP特別委員会委員も到着され紹介された。そして、参議院議員 金子源二郎 榊原栄子 秘書が挨拶に来られて定刻になり開催された。

中山福岡同友会代表理事の司会で、鋤柄会長の開会の挨拶から杉本征郎実行委員長の趣旨説明と進み、豊永厚志中小企業長官の講演と運ばれ、具体的な中小企業政策の話は30分の予定を15分オーバーするほど熱心に講演をされた。

次に、日本商工会議所 加藤正敏中小企業振興部長に長官の話の補佐的話をいただき、次に全国中小企業団体中央会 庄山浩司政策推進部副部長は消費税の据置に注目という発言、全国商工会連合会 廣田実企画支援部企業環境整備課課長からは地域における事業承継に取組みをし、全国商店街振興組合連合会 吉田康夫専務理事は消費喚起策として振興券をもう一度、中心市街地の活性化や外形標準課税反対を訴えた。

第2部事例報告は、岩手同友会 菊田事務局長が少子高齢、人口減少、3.11震災をへてエネルギーシフトを学んで振興条例制定へ。水戸谷完爾氏は2005年より取り組んできた中小企業振興基本条例が2016年制定された報告。愛媛県の米田順哉副専務理事はいかに同友会運動と条例制定が、その推進運動が我々中小企業に必要なのかを判り易く説かれた。「人を生かす経営の総合実践」が条例の基本である。「人を生かす経営」を実践している企業と日頃の同友会活動が条例運動の基礎である。産学官連携のプラットフォームを同友会が担い、そこでの信頼関係・人間関係を構築する。更には「条例は地域における経営指針」である。つまり「経営指針を実践している人が条例運動を実践すると成果が出るので同友会しかできないのです」と言われた事に感銘した。そして、これからを担う子供たちへ「みらいデザインゲーム」を使っの啓蒙を説かれた。

その後も入場された国会議員さんたちに発言をいただいたが、「賃金の引き上げ」「雇用創出の具体策は1万社の中小企業が1人の雇用で大企業に負けない」「中小企業小規模事業者への支援策を」「慰安旅行参加は100%福利厚生費で認めよう」「秋の信用保証制度改定」「景気回復の看板が見えなくなり消費税に話題が集まっているが財源は大企業から賄わなければな

らない。外形標準課税の中小企業向けはもってのほか。」等々元気な表明。

ここで熊本から7名の皆さんがお越しなので現状について説明がなされた。まずもって全国からの支援に感謝申し上げます。しかし1670回を超える余震がいまだ続いている。当たり前だと思っていた日常が、突然なくなって改めて平和が大切だと感じている。これからも近県と力を合わせて復興にむけて頑張っていきますので物心両面の支援をと要請された。そこで、自民党 参議院副幹事長 古賀友一郎 衆議院議員以下9名の発言をいただき「公平な税制について国民的議論を必要とする」「大企業や富裕層からの徴収を」「社会保険料の10年間減免を言ったが否決された」「消費税の複数税率だけはやめさせる。承継税制の株式評価」「正社員雇用に伴う社会保険料の負担増を支援したいが却下」「低炭素まちづくり法」「外形標準課税は従業員の給与に課税されるものです」等々表明された。

「総括」として、憲章・条例の運動は長い時間をかけてやり続けていく必要がある。3つの課題と4つの柱が必要だ。それがあって継続的に行えば到達点に行ける。問題は、中小企業憲章が日本にあると言う事を広めなければならない。代議士の先生が来ると言う事も、今日、私達が集まってきたおかげである。中小企業憲章が閣議決定したおかげで継続してきている。だから、私達がこれを持ち帰り広めなければならない。ブロックでの勉強会も必要ではないか？原点は何か？赤石さんが言われたように、日本の社会の中で中小企業を中心とする運動を進めていかなければならない。その為には、政策化を進めなければならない。続ければ良いと言うものではない。

長崎：宮田政策委員長からの意見として、長年やってきたが、会員さんに浸透していない。具体的な活動が必要ではなからうか。故にやり方を一工夫必要ではなからうか。

・神奈川大学の大林先生の感想

長官が単なる行政マンではなく6ページの施策の全体像を描いたと言われた。

真ん中の所に中小企業の実態を描いているので皆さんで議論してほしい。

価格転嫁の中にはそれぞれ性格が有ると率直に語られた。

中小企業家等と表現されている。

前から見ると、随分浸透して来たな。与野党の先生たちが細かな政策について話した。

公平を目指してみらいデザインゲームは素晴らしい。高校の授業に使いたい。
単純な言葉、わかりやすい図、選挙権を控えた子供たちに考えてほしい。
激動の岐路に立っているが、幸いに同友会の理念がある。今日を出発点に！

- ・ 広濱幹事長のまとめでは、
なぜ我々はこの活動に取り組んできたのか：三つの目的の総合実践していく我々だから
我々は何を目指していくのか：生きる。人間らしく

生きる。先頭に立って真摯に行う。
これによって連続性が担保される。発展性も担保される。
具体的にどうする：いろんな施策を使い果たす。会員全体が関わっていく。
施策の全体像を持ち帰り皆に伝える役割がある。

- ・ 6月8日10時より金融庁との懇談会
6月8日13時より17時まで第5回幹事会に参加し充実した2日間だった。

中同協・障がい者問題委員会 参加報告

開催日時：6月22日(水) 13:00～ 会場：神戸市勤労会館



今回初めて中同協障害者問題委員会へ参加させていただきました。全国ではどのような活動をしているのか非常に興味深かったので、参加を楽しみにしていました。

報告ではまず、大分同友会の取り組みとして、実習生受け入れ賛同企業マップというものをつくりグーグルマップに公開し、誰でも情報を閲覧できるシステムを作っているということでした。これは企業の事もわかり、情報の共有化ができるのでよい考えだと思いました。

また、大分同友会では障がい者実習賛同企業の登録を2005年から始め、15社だった登録企業も2016年には116社に増加しています。それに伴って、実習生受け入れ、そして雇用も増加しています。このような取り組みも大事な事と思いました。今後の課題では登録企業が増えていても、実際に実習や雇用に思うように繋がらないので、さらなる深掘りが必要ということでした。

京都同友会は、児童養護施設の子供達への適職探索支援の報告でした。生徒達と同友会会員がミーティン

女性部会・障がい者問題担当委員会
障がい者問題担当副委員長
菅原 千代枝

グをして希望職種を聞き出し、希望職種の会員にアプローチをし、施設側とも連携をとりながら実習、雇用に繋げていくという事でした。生徒の意見をまず第一に考え、慎重に一つ一つ進めていくという形がきちんととられています。

二件の報告を聞き、やはり私自身のやるべきことはたくさんあるという事に気づきました。こうして他県会員の報告を聞くことは、情報を得るという事で大事なことで、今後も積極的に参加していこうと思いました。そして、長崎での発信をしていく重要性も感じました。

また、会議に参加している他県同友会のそれぞれの活動報告を聞き、障がい者問題委員会として熱い思いで活動している方ばかりで元気ももらえました。

委員会の後は兵庫同友会障がい者委員会設立例会でこちらも新たな学びとなりました。

今後の活動を具現化し、次回広島での委員会でのよい報告ができるようにしていきたいです。

投稿募集のご案内

- DOYU ニュースでは会員の皆様の投稿を募集しております。
企業訪問や支部・地区会等の行事や取り組みなどご紹介下さい。
- 文字数／約 500 字
 - 画像／歓迎します
 - ☐掲載／情報広報委員会にて選考
 - ☐投稿先／情報広報委員または同友会事務局まで
 - ☐メール／jimu@nagasaki.doyu.jp



中同協 第48回 定時総会および第1回幹事会 参加報告

開催日：7月14・15日(木・金) 会場：シェラトン都ホテル大阪



代表理事 松尾 慶一

定時総会2日目のメインイベントはパネルディスカッションです。日本の新しい未来を切り拓く為「エネルギーシフトの学習と実践を」

4人のパネリストは鋤柄会長・平沼地球環境委員長・畑野企業連携推進連絡会代表・石渡政策委員長で、コーディネーターを福岡同友会代表理事の中山経営労働委員長が務められました。まずエネルギーとは何か？原点は2013年にドイツを視察して日本のアメリカナイズされた大量消費の考え方とヨーロッパの自分たちが必要なエネルギーは自分たちで作出し地域内でお金が回ると言う考え方に驚きました。

(鋤柄会長)エネルギーシフトとは何か？

(平沼さん)私たちは電気を63%捨てている。実際に私たちの使っているのは35%しかない。だから考え

方としてエネルギーシフトはエコノミーシフトでもある。

(石渡さん)よって各地域での中小企業振興基本条例の中に是非エネルギーシフトを入れてほしい。出来れば各社の経営指針書に各県の活動計画に入れてほしい。そこで重要なキーワード「連携」です。

(畑野さん)特別な事をするのではなく連携とは日頃の経済活動そのものです。中小企業が参入できる領域の中に沢山ありますし大きな可能性あり。成功事例としてゼロエネルギーオフィス。

(愛知同友会の加藤さん)特別に経費をかけずに、エコハウス大型風力発電に取り組んだ中小企業が有る(銀行から40数億借り入れて大企業に発注し全てお任せして本業と違う投資をした事例)このように中小企業の連携の可能性はとても大きい。

(中山さん)心強かったのは、鋤柄会長の発言でした。各地同友会でエネルギーシフトの学習会をやる所には必ず優秀な講師を派遣しますとの事です。

まとめとして(中山さん)何故エネルギーシフトなのか？を同友会で社員さんと共に学習し自分達に必要なものは自分達でつくるをモットーに本日総会で決議された「中小企業家エネルギー宣言」を各地同友会で学び深め推進していく事が決定し、まず同友エコに登録しようとなりました。

私にとってもまた新しい課題が出来ましたし、長崎の皆さんへどの様に働きかけるか楽しみが増えました。

第12分科会

事務局の体制強化に役員の認識を高めよう
～会員と事務局員は同友会運動を推進し
未来を創造するパートナー～

中同協 幹事長 広浜 泰久 氏

京都同友会 専務理事 荻原 靖 氏

石川同友会 事務局長 柴 克也 氏

長崎浦上支部 吉澤 健

事務局員さんと我々会員は、同友会運動を担うパートナーとして存在しています。同友会理念と方針を共有し、その実現をめざし運動を企画推進する事務局員さんも運動の主体者です。

荻原さんは、京都同友会事務局に入局後、当時の下請け型事務局に疑問をもっていました。それを指摘

する役員もいなかったようです。その後、事務局の労働環境の整備や法令厳守に取組み、事務局経営指針書を作成します。会議時間の短縮、残業や有休の使い方などについて役員との連携を深めました。今では、事務局が北極点のような立場へと成長しています。

石川同友会事務局長の柴さんは、前事務局長の突然の死から急遽局長となり、事務局体制づくり、残業の



半減化、賃金規定導入、事務局のPL分析など多くの改善に取り組みました。また個別方針に基づく計画の立案、アクションプランの成果チェックまで実施しています。

このように京都、石川両同友会事務局に共通することは、リーダーが、すべての課題を主体的に受け止め、道を切り開く気概を持っていたからだと思います。もう一つは、課題が役員と共有されていたことも成果の重要な要因だったと思います。

労働時間の短縮への取り組みとして、例会には可能

な限り参加しない。フレックスタイムを導入する。一方、事務局業務の幅を拡大し、学校、行政との繋がりを強化していき、5年後10年後、どのような事務局にしたいのか目標を立て、実践することが重要であるとグループの纏めになりました。

今回は、事務局員さんについて学びを深めましたが、同時に自身と自社に関する多くの気づきがあり、何度もはっとさせられました。歯止めの気づきは、再実践の出発点となりました。以上参加報告といたします。

第3分科会

戦争と中小企業 ～いまこそ平和を考える学習運動を～

慶応義塾大学 経済学部 教授
(中同協企業環境研究センター・副座長)

植田 浩史 氏

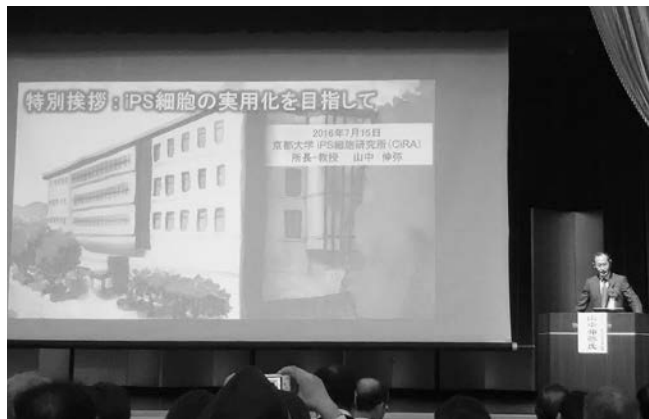
みらい経営研究所 代表
(愛知中小企業家同友会 名誉会員(創立会員))

浅海 正義 氏



事務局次長 峰 圭太

私は初めて「平和」をテーマにした分科会に参加させていただきました。中同協の政策委員会に参加した際、「今の中小企業経営は平和の上に成り立つ。戦争を経験した現会員が報告します」という話をいただいたことがきっかけです。まずは慶応大学の上田先生からは戦時中の中小企業の実態を報告いただきました。それまでの戦争の形と異なり、国家の総力戦と化した第一次世界大戦下における中小企業は、国家戦略として軍需品の生産に力を入れた国家戦略のため半ば強制的に工業組合に加入させられ、「ヒト、モノ、カネ」を強制的に政府が回収、分配することになったそうです。いわゆる統制と動員の国家戦略のため、日本の中小・小規模企業は本来の業態から軍需品へと移行、組合を通しての仕事受発注のため下請指定業者になれない企業家が仕事を求めて満州へ移住した等、知らなかった事実を学ぶことができました。愛知同友会の浅海さん(17歳で第二次大戦を経験。愛知同友会のチャーターメンバー)からはその中でもひとつのテーマに向かっ



てとことん議論する同友会の「民主」の在り方に言及、憲章にもうたわれている平和の意味を再度学習し、戦争を経験した中小企業経営者の想いが詰まった同友会理念の大切さを教えていただきました。

グループディスカッションでは、戦争と中小企業の間関係をもとに意見が交わされましたが戦争を知らない世代のため、「平和」についてそれぞれの解釈が異なる中、同友会的にしっかり各地同友会で学習し、学びを深めていくことが確認されました。「戦争がないことが平和だという消極的平和でなく、貧困などをつくらなくようにする積極的平和をつくろう」という座長のまとめはまたひとつの大きなヒントになったかと思えます。

総会においては全体的な議案、役員などの議事もスムーズに進行しましたがエネルギーシフトに関するパネルディスカッションも行われるほど、全国ではエネルギーシフトを大きな課題として掲げています。長崎ではエネルギーシフトの学習はまだ進んでいないので体系的に学習を深める場をつくるが必要だと感じました。単なる節電ではなく、条例に、また議案書の活動方針内に地域経済を担う中小企業家だからこそ取り組むべき課題という位置づけを確認できました。今後、役員の方と協議しながら出来ることから進めていきたいと思えます。

二日目、2012年ノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥教授から特別挨拶をいただき、医者を目指したきっかけ、iPS細胞が持つ今後の可能性、

また京都大学 i P S 細胞研究所で400名のスタッフを抱える所長(経営者)としての取り組みなどを講演いただきました。

総会終了後、第1回幹事会は午後から開催。議案の確認や年間の主な行事についての確認等が行われた後、中同協 鋤柄会長からトップリーダーとしての役割、覚悟についての問題提起がありました。①運動課題を決めリーダーとして会を引っ張ると同時に地域から目標、噂になるほどの企業にしなければならない②もう1ランク上の経営指針をつくり社員一丸となっ

て共有、実践する ③代表理事や副代表理事が同友会の語り部となり他の理事に伝えていくと同時に社員が安心してついていく経営者に、などというまさに体現者としての言葉には重みと責任等の力がこもっていました。鋤柄会長ご自身、今年が会長として最終の1年と話されていましたが、事務局としても「何のための同友会なのか」をしっかりと念頭に置き、代表理事はじめ、役員の方と議論を深めながら運動の拡大と会員企業の発展、地域の発展の一助になればと再認識した総会でした。

2016年度 長崎県産業労働部との意見交換会 開催報告

開催日時：7月29日(金) 18:30 会場：「えきまえ」いきいきひろば



「お互いステップアップしながら引っ張っていきましょう」「若者の地元定着を協力し合って進めていきましょう」これは、松尾代表理事と山下産業政策課長の開会挨拶です。

今回の意見交換会のテーマは、多くの会員企業の経営課題である「人」に関すること。昨年に引き続き、今回も「人」をテーマに、長崎浦上支部長の吉澤さんの司会進行のもと、県の産業労働部との熱いディスカッションが行われました。

出席された方々は、県の産業労働部から、産業政策課長の山下さん、食品産業・産地振興室長の櫻井さん、商務金融課長の荒田さん、海洋・環境創造課長の森田さん、雇用労働政策課長の松本さんの各課長はじめ14名が参加、私たち長崎同友会からは、松尾代表理事をはじめ、各支部から支部長や政策委員長を中心に39名、事務局の峰さんを含めて総勢54名で会場がいっぱいとなり、熱い盛り上がりとなりました。

まず、政策委員長の宮田さんから、同友会景況調査による中小企業・小規模事業者の現状と長崎同友会の取り組み、中小企業振興基本条例制定による振興策の加速の動きや中小企業家同友会の紹介があり、人材の確保や育成、社員やパートの高齢化、即戦力の採用難、

中小企業振興基本条例での雇用の場の提供などの「人」に関する課題について報告がありました。

続いて、共育委員長の土井さんから、合同入社式や新入社員フォローアップ研修、共育講演会への取り組みの紹介があり、異業種の人と一しょに学んで同期としての交流を図っていることや、同友会主催の合同企業説明会開催に向けて取り組んでいることの報告がありました。

そして、県からは、雇用労働政策課課長補佐の都野川さんから、雇用のミスマッチ状況や「Nなび」による情報発信強化による県内志向への取り組みについて、産業政策課企画監の吉村さんから奨学金返済支援制度の説明と協力依頼のご報告がありました。(**「Nなび」**: ながさき県内就職応援サイト)

これらの報告を受け、同友会スタイルでのグループディスカッションに入り、8グループに分かれて、「地元長崎で働く人を増やすために～行政ができること、企業ができること～」をテーマに活発な討論が続きました。

PRするために「Nなび」を活用したい、「Nなび」は自社の魅力とは何かを再考する良い機会、目先に注力しがちな若者に対してどう将来性を示せるか、子育て





てしやすいための行政の協力を、処遇改善は厳しいので暮らしやすさをPR、先生にも現場体験してもらおう、などの意見が発表されました。各テーブルでは熱い討論が続き、もっとディスカッションしたいという意見が多かったことも、この会の盛り上がりを表したものでした。

最後に、島原支部政策副委員長の三田さんから、「就職できて良かったねと言われる地元で愛される企業になれるようしっかりPRしていきましょう」と、続い



て、雇用労働政策課長の松本さんから、「魅力ある人材が身近にいることが重要で、勤める人の気持ちになって取り組んでいきましょう」と総括があり、議論は長崎出島支部 岩崎さんのお店「炬談」での懇親会でさらに盛り上がり、交流も深まり次回へのステップアップを確信できた1日となりました。

(文責 大村支部 得田 稔)

2016年度 第1回 新入社員フォローアップ研修 開催報告

開催日時：7月30日(土) 13:30 会場：多良見体育センター会議室



合同入社式から3か月が過ぎた7月30日、第1回目の新入社員フォローアップセミナーを開催いたしました。慣れない研修で、最初は緊張気味の新入社員さん達でしたが、恒例の握手タイムでスタートすると、少し緊張が解けたようでした。

最初の研修では、松下幸之助氏の「道をひらく」を読んだ感想を各自発表しました。皆さんそれぞれに琴線にふれた部分があったようで、「素直に生きることを学んだ」「プロの自覚を持って仕事に組み込みたいと思った」「縁を大切にするという言葉が心に残った」など様々な意見が出ました。ここで大切なのは、同じ本を読んだとしても人によって感じる部分が違うということ。その意味でも、この本はたくさんの“気づき”

を与えてくれたようです。日常の仕事でも様々な人の意見を聞き、自身の成長の糧にしてほしいと思います。

次の研修ではインターナショナル エア アカデミー 長崎校 校長の田中美吉子氏にご登壇いただき、ビジネスマナー研修をテーマに話をさせていただきました。

最初に「起立!」と言われた後の、動作スピードが遅いことに言及され、ハッとさせられました。マナーとは相手のためにするもの。自分のためではありません。名札の位置は相手に見やすい位置なのか、話している人の目を見て話しているかなど、改めてマナーの基本、奥深さを知ることができたのではないのでしょうか。

またCA時代の実体験を元に「マナーとは何か」を



様々な切り口でお話いただきました。その中で特に大切なことは、①観察力、②ABC（A…当たり前の事をB…バカにせず C…ちゃんとやる）他にも多くの心に残るお話をしていただきました。

私たち経営者も今回の研修に参加して、大きな学びを得ることができました。新入社員の皆さんには、研修をとおして多くの“気づき”を持ち帰り、自身で実践し、自己成長の一助になることを期待しています。

（文責 佐世保支部 山崎 秀平）



長崎浦上支部 本音で語り合い、仲間をつくる交流会 開催報告

開催日時：7月2日（土）18：00～ 会場：プライムステージ

テーマ：事業承継を行ううえで、あなたの悩みと会社の課題は何ですか？（グループディスカッション方式）



支部仲間づくり委員会主催のミニ例会という位置づけで開催された今回の交流会には、オブザーバー1名を含めた14名が参加されました。

テーマは事業承継。オリエンテーションの後、早速経営のバトンを渡す側と受ける側に分かれたグループディスカッションを始めました。同じ立場の者同士がそれぞれ抱える個人的な悩み、会社（組織）の課題を話し合い事業承継の具体的な課題が浮かび上がってきました。

渡す側からは、「後継者には様々な仕事を経験させ一番能力を発揮できる部署を見極めたうえで承継したい。」「今、二人の息子のうち弟のみ会社で働いているが、もし兄の方が会社に入りたいと言って来たら二つある店舗をそれぞれに承継させようと考えている」「三人の息子の中で三男が次期社長となることに兄弟間で決まっている」など現経営者として承継方法をすでに決めている方が多くいらっしゃいました。

一方、受ける側からは「次期経営者としてもっと自分のスキルを上げていかないといけない」「社長とのコミュニケーションをしっかりとっていかないといけない」など次期経営者としての責任を認識し、自己を

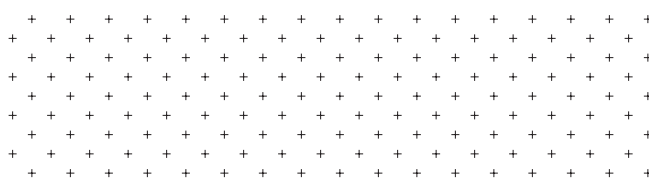


より高めていこうという意欲を感じさせる意見が多くありました。

また共通の悩みとして「在職期間も長く現在幹部として会社に貢献されている社員さんとの関係」を心配する声が多く聞かれました。

この後のグループ発表・質疑応答の時間では、自社の社長（親）・後継者（子）には直接聞きにくいことを質問し合い、活発な意見交換が繰り広げられました。

（文責 長崎浦上支部 仲間づくり委員長 山崎 功）



ウエスレヤン大学 就職活動スキル講義 参加報告

開催日時：7月19日(火) 会場：長崎ウエスレヤン大学



長崎ウエスレヤン大学での、「就職活動スキルⅠ」の講義において3名の同友会会員が講師として講義を務めました。

講義①

(株) 杵の川 代表取締役 瀬頭 信介 会員 (諫早支部)

瀬頭さんは「人生を豊かにする酒造りをしよう!!」という思いをもとに、地元諫早で地元米を使った酒造りに取り組まれています。酒造りをするにあたって、酒造りの職人達と、コミュニケーションをとりながら、常に今何が足りないのかを考えて、創造力、発想力を持って仕事に取り組まれているそうです。

ハートがないとモノづくりは伝わらない。瀬頭さんの酒造りに対する思いや情熱を、学生に向けて伝えられました。

講義②

(株) 昭和堂 社長室 永江 嘉國 会員 (諫早支部)

永江さんは、コミュニケーション能力の必要性について話されました。話す力、聞く力、読む力、そして、明るく元気な挨拶が出来るかなど、基本的なコミュニケーション能力を学生の時から意識して身につけてほしいということ。そして、会社に入って自分は何をしたいのか、という自分の考えをしっかりと持つことが大切であるということ。ネットの情報などに振り回されず、自分の目で見て判断することが大切だと伝えておられました。

仕事は一人で行うものではない、だからこそコミュニケーション能力の大切さ、相手と心を通わせる事がいかに重要であるか、自分なりの表現力を持ってこれらを身に付けてほしいと話されていました。

講義③

(株) マツモト 代表取締役 松本 一孝 会員 (長崎浦上支部)

まず、就職は恋愛か、結婚かという問いかけから始まり、会社を選ぶにあたって、選択基準をしっかりと持っておく事。事前に会社の情報やその会社の目的などをしっかり把握しておく事が大切です。と話されました。そして、会社が求めているのは、「優秀」な人材ではなく「優益」な人材。いくら優秀でも会社にとってマイナスな影響を与えるようでは意味がありません。

また「考え方」「熱意」「能力」、全て掛け算で考え、どこか一つでも0になると成果を得ることは出来ないということ。

商売で一番大切なのは「信頼」という言葉。有限な時間を使って、無限な可能性にチャレンジしてください!と熱く話されました。

3名の講義を聞いて、学生の振り返りも沢山届きましたので、いくつかご紹介いたします。

・今までの就活スキルの中で一番ためになったと感じました。改めて就職までに人間力をあげる必要があると感じました。今、自分に足りないものはコミュニケーション力と思うので、上げる必要があると思いました。(2年女子)

・松本様の就職は恋愛か結婚かというお話を聞き、改めて自分が企業の何を見て選択しているのかを考えることが出来た。(4年女子)

・仕事というのは能力がほとんどと思っていましたが、どんなに技術や能力をもっていても熱意がないと意味がないという事を知りました。(2年男子)

・今日の講義で、適当な就職は自分にとってマイナスにしかならないので、しっかり調べて、出来る限り就職してみたいところで試しに働いてみるというのもありだと感じた。(2年男子)

・まとめとして

学生が就職活動をしていく中で、このように最前線で活躍されている会社の経営者から生の声を聞く機会は今までなかったのではないのでしょうか。長崎同友会諫早支部では、長崎ウエスレヤン大学と包括協定を結んだことによりこのような機会を作ることが出来ました。今後も、学校と企業が密接に交流が出来るような環境を作り、多くの学生が地元企業に就職し、活躍していくことで、地域活性化に繋がっていかねばと感じました。

(文責 諫早支部 産学連携委員長 廣谷 慎也)

産業人材育成戦略策定検討WG 参加報告

開催日時：6月27日(月) 14:00～16:00 会場：長崎県庁第2別館

昨年度、県によって立ち上げられた「産業人材育成産学官コンソーシアム」はいくつかの検討課題に分かれWG(ワーキンググループ)を開催しています。今回、そのうちの1つに参加させていただきました。

産業人材育成戦略(仮称)の概要や戦略策定の中心となる業種、今後のスケジュール等が協議されました。同友会からは合同入社式や新入社員フォローアップ研修の現状を報告、また戦略策定の中心となる業種に関

して発言しました。今後具体的に業種ごとの検討チームに分かれ協議を進めていく形になるかと思います。人材育成に関しては長崎同友会の景況調査でも上位に上がるように大きな課題の一つです。同友会としてもこのような県の取り組みには積極的に協力していきたいと思います。

(文責 事務局 峰 圭太)

2016年度 全国事務局員研修会 参加報告

開催日：7月20日(水)～22日(金) 会場：興和ビル会議室 6階(愛知県名古屋市)

愛知での全国事務局員研修会に参加させていただきました。全国から入局3年以内の事務局員21名が参加し、中同協役員をはじめ中同協事務局長、先輩事務局員、中部経済新聞社支局長からの報告と愛知同友会会員企業の企業訪問をさせていただき、合計5講の報告と2社の企業訪問、4度のグループディスカッションを行いました。

今回の研修を通して同友会運動の歴史と理念について改めて学ぶことができました。書籍の行間にあること、背景を知ることが大切であり、可能であればその体験をされた方から直接お話しをお聞きすることで歴史をさらに深く知ることができると学びました。また、理念も個別にバラバラに存在するものではなく、なぜそのような結果に至ったかという歴史や繋がりを学ぶことで、さらに同友会理念の理解を深めることができました。

今回は外部講師として中部経済新聞社支局長の柴田さんより報告をいただき、今までは新聞を斜め読みしていただけだということにも気づきました。それは身銭を切っていないことと、何の意識もせずに漠然と読んでいたことに原因があります。報告やグループディスカッションから、テーマを決めて新聞を読むことや株価等の数値を追っていき情勢について自分なりの見解を持てるように心がけたいと感じました。また、情報が断片的にならないように、視野が狭くならないように、グローバルな視点を持つことも大切であるということ学びました。

企業訪問を通して同友会理念が実践されている現場を実際に訪れることで、知識として知っていたことがさらに理解が深まるという体験をすることができたとともに、会員企業を知ることができるのはやはり企業



訪問であると改めて確認しました。

最後に今回の学びを活かし、事務局だからこそできることは何なのかという問題意識を常にもって行動し、悩むときは歴史をひも解き理念に立ち返ることを忘れずに行動します。今回は貴重な機会をいただきありがとうございました。

(文責 事務局 田口 友廣)

折込サービスのご案内

会員企業の皆様で制作されたチラシを広報誌と一緒に会員に配布するサービスを行っています。

毎月10日迄に事務局宛お届け下さい。発送は毎月15日～20日に行います。支部指定も出来ます。

A4チラシ1枚5円です。A3チラシは2枚分となります。ご利用お待ちしております。

事務局企業訪問

今回は、昨年度、経営フォーラムを成功に導かれた
北松浦支部長 池野晋一さんにお話を伺いました。



＜波乱万丈！ いや 時流を読む名人？＞

池野さんは、松浦市星鹿町の「池野酒店」の長男として生まれました。しかし、過疎化が進む街で酒屋を継ぐのが嫌で、実家を飛び出し、松浦火力発電所の建設就労者向けに宿泊施設を建設し、莫大な利益を得、その資金を元手に長崎市内でスロット専門店を開店！しかしなぜかうまくいかず、負債だけが残りました。漁師をはじめ様々な職を転々と…。たどり着いたのは、実家の「池野酒店」でした。

＜酒の一斗 始動！＞

愛する故郷でありながらも星鹿の街と年商2,500万円の「池野酒店」に未来はない、そう判断した池野さんは新たなビジネスモデルを研究し続け、ついに1993年「酒の一斗」をスタートさせました。

「酒の一斗」の『一斗』とは？「升」の10倍の単位が「斗」。一度に一升瓶1本売るのではなく、一度に一升瓶10本 つまり「一斗」売る！！すぐに売り上げは10倍に！という強い意志からの命名でした。（実際の初年度の年商は20倍の5億！）

店舗は、本部から車で1時間以内の一等地とし、通常の卸業者が2t車を使う中、10t車を使用し、徹底的にローコストを追求するというエリア戦略を迫られました。

＜地域への恩返し＞

池野さんは、酒類販売業を中心に、3年前に介護事業を開始、そして、今春にはコンビニ業にも進出されました。そこには、すべて、これまで培ってこられたサービス業を原点に、地域への恩返しをしたいという

池野さんの熱い思いがありました。また、時流を読む中で、福祉業界とコンビニ事業は、一度は取り組むべきものであるという判断もあったのも事実です。

地域貢献は、お客様からの支持を得、なんと現在は年商20億を越える企業にまで成長させました。

◎酒類販売 卸・小売 7店舗（（ ）内は売り上げ比率）

- ・ディスカウント（40％）
- ・専門店（10％）
- ・酒菜館（お酒をベースに地産地消推進）（10％）
- ・業務用卸（なんと800軒）（40％）

◎介護事業「茶話の里」高齢者用住宅、リハビリ施設

◎コンビニエンスストア（セブンイレブン）

＜同友会との出会い・関わり＞

同友会には、稲沢さんに誘われ、2003年6月に入会。早く支部長に！という有難い声もいただいていたものの忙しく、なかなか参加できない状態が続きました。富川さん（前支部長）が支部長に就任された頃から、そろそろ次こそ自分の番かなと腹を括られ、積極的に参加する様になり、2014年度ついに支部長に就任されました。

松浦市、平戸市の中小企業振興基本条例制定にも尽力されたのは皆さんご存知の通りです。

＜展望＞

池野さんは、現状にまだまだ満足されていません。「繁栄計画書」と名付けられた経営指針書は、社員の皆さん、社員の家族の皆さん、そして地域の皆さんの『繁栄』を築き上げるために、年々進化を遂げられています。

常にアンテナを張り巡らし、何かできることはないか？と探し続けている池野さん。地域の雇用を拡大し、更なる地域活性化に向けて着実に一歩ずつ前進を重ねている池野さんと一斗グループの今後から目が離せません！



・酒の一斗 佐々店

<(有)酒の一斗>

「経営理念」

・価値創造

この地域に必要な、酒の専門店として、お客さまに満足して頂けるサービスを自らの手で創造し、社会貢献する事で、全ての人と共生の道を考え、快適な生活価値を創り出す事である。

・立志と探究心

1. お客様の喜びをめざし買い場作りを徹底しよう。
2. 形式にとらわれず結果を求めよう。
3. 本音で最後まで語り合おう。
4. お客様の意見を正確に素直に聞き入れるようにしましょう。
5. 広く深く考え、大胆に挑戦しよう。
6. 感謝の心で、行動しよう。

〒 859-6326 佐世保市吉井町立石 272-1

電話：0956-64-4747 FAX：0956-64-4748



・小規模多機能ホーム「茶話の里」

(文責 事務局 山田 幸司)

新入会員の皆さんです<7月入会・交代>

(敬称略)

<入 会>

支 部 名	大村支部	
氏 名	おびや まさたか 帯屋 正隆	
企 業 名	(有)合同印刷	
役 職 名	代表取締役	
企 業 住 所	〒 856-0017 大村市荒瀬町 1101-1	
T E L	0957-55-1919	
F A X	0957-55-1955	
業 種	印刷業	
企 業 P R	創業 71 年、小さなものから大きなものまで、幅広い印刷物や販促物等をご提供しています！	
スポンサー	上谷 直人	

支 部 名	島原支部	
氏 名	かねこ のりふみ 金子 典史	
企 業 名	ひといき整骨院	
役 職 名	院長	
企 業 住 所	〒 859-2212 南島原市西有家町須川 316-2	
T E L	0957-82-2734	
F A X	0957-73-9508	
業 種	柔道整復	
企 業 P R	みなさんに笑顔と元気を届けます！！心と体のケアはお任せください。交通事故・労災・スポーツ外傷など。	
スポンサー	川上 貴弘	

支 部 名	大村支部	
氏 名	ひら てつや 比良 哲也	
企 業 名	長崎管材(株) 大村支店	
役 職 名	営業主任	
企 業 住 所	〒 856-0814 大村市松並 2 丁目 924-1	
T E L	0957-53-4101	
F A X	0957-52-2095	
業 種	上下水道資材・住宅設備機器販売	
企 業 P R	水まわり、上下水道資材や住宅設備機器など、人の暮らしに大切な水に関する商品を取扱い卸販売をしています。	
スポンサー	高瀬 邦彦	

支 部 名	佐世保支部	
氏 名	わたがわ じゅんこ 綿川 淳子	
企 業 名	(株)佐世保福祉	
役 職 名	取締役	
企 業 住 所	〒 859-6101 佐世保市江迎町長坂 188-4	
T E L	0956-66-3434	
F A X	0956-65-3388	
業 種	障がい者福祉	
企 業 P R	2012 年、障がい者の就労支援施設として開設し、地元江迎町で盛んな「薩玉」の制作・販売を行っています。職員・利用者共に佐世保市の地域資源でもある薩玉の文化を、日本中、そして海外へ広げて行くという夢と希望を持って活動致しております。	
スポンサー	吉村 市代	

<交 代>

支 部 名	長崎出島支部		
氏 名	かえつ よしやす 加悦 良康		
企 業 名	(株)小島工作所		
役 職 名	代表取締役社長		
企 業 住 所	〒859-0401 諫早市多良見町化屋1880		
T E L	0957-43-2983	F A X	0957-43-0132
業 種	木製家具・建具製造業・内装仕上工業業・リフォーム工業業		
企 業 P R	今年で設立54年目の木工所です！長崎県内外問わず様々な場所の家具・建具を制作してきました。(普段目になっている、その木製家具。実は小島工作所です!?)これからも、「木を生かした人にやさしいモノづくり」をモットーに利用者が使いやすいオーダー家具・建具を提案・制作していきます。		
前 会 員	加悦 明良		



幼稚園を経営する旧深江町長の長男として生まれ、父の生き様からいろいろな学びを得、土地家屋調査士として事務所を開く。小学生の時の将来の夢の職業につき、28歳の時、25年カレンダーをもとにした人生設計、経営を進める中で相談業務が増えて、スタッフの充実した雇用環境を図るため法人を設立。しかし、法人を設立し、13年目で思いもよらぬことが…会社を経営していく中で思う。「何のために仕事をし、何のために生きているのか？」～すべては次世代を担う子供たちのために～と人生の理念を掲げ、様々な事業プランを実行し続ける。仕事を通して我々に出来る地域貢献は何か。地域活性化への今後のビジョン、経営者の姿勢として必要なこと、そんなことを皆さんと考える時間になればと思います。例会参加は無料です、ゲストを含めた、たくさんの方々のお越しをお待ちしています。

●島原支部

日 時 9月12日(月) 19:00
会 場 HOTEL シーサイド島原
テ ー マ これが敦子の生きる道(ビジョン)！
～創業49年にして、初めて出来た羅針盤～
報 告 者 村上彫刻 副代表者
村上 敦子 会員(佐世保支部)

結婚を機に前職を退職して入社した当時は、環境の違いに戸惑いながらも仕事に奮闘する日々でした。その中において仕事上での出会い、子どもの受験・PTA活動を通じ、様々な経験・学びを得ることが出来ました。そこで見出した目標を達成するため、そしてさらなる飛躍のための学びを得るために同友会に入会しました。入会してからは先輩方から数多くの学びをいただき、その中で経営計画発表会の存在を知りました。その後、経営計画書策定セミナーを受講することで自社の新たな経営体制を確立し、経営理念・経営計画が誕生、その翌年に自社の経営計画発表会を実施することが出来ました。それにより、スタッフとの意識共有が出来たのみならず、中期経営計画への取り組みによる3ヶ年ビジョンも完成し、自身の夢や目標を達成するための道しるべとも言える羅針盤を手にすることが出来ました。本日はそれに至るまでに歩んできた道と、これから進んでいく目標とする道のお話をさせていただきます！是非ともお話し合わせの上、お越し下さいませ！

●佐世保支部

日 時 9月23日(金) 18:30
会 場 佐世保市民会館
テ ー マ 未定
報 告 者 (株)野田武一商店 代表取締役
野田 洋市 会員

1962年、野田会員の祖父が荒物の行商を佐賀市で行ったのが(株)野田武一商店の始まり。26歳の時に、社長であるお父様を亡くし、それと同時に当時主要取引先であった日用雑貨商社から取引を解消され、当時は会社の方向性を模索する事となりました。そんな中、野田会員の「得意・好きを商いに活かす！」と、これまで取り組んできた数々の事例、今年初出展の「東京ビックサイト」、今後の壮大なビジョンに向けての報告していただきます。9月例会は野田会員から多くの学びをいただける事、間違いないです！

●北松浦支部

日 時 9月15日(木) 18:30
会 場 サンパーク吉井
テ ー マ 中小企業の人材採用について
報 告 者 (株)エイコー商事 代表取締役
富川 栄治 会員

有効求人倍率「1.34倍(※2016年4月末)」、人口減少、高齢化社会の進展等々…。中小企業において、今や人材を採用することは容易ではなくなっており、「人材」ではなく「人財」となっている。今後人財の確保は中小企業の経営を大きく左右する。こうした状況を中小企業は真剣に考え、向き合わなければならないと、北松浦支部の会員でもある(株)エイコー商事の富川さんは強調する。毎年、(株)エイコー商事では、人材の採用・定着に力を入れており、採用した人材の能力を最大限に経営に活かす驚愕の労働分配率を実現している。9月例会に、ついにその富川式人財採用術のノウハウが公開される。

●五島支部

日 時 9月21日(水) 18:30
会 場 未定
テ ー マ 未定
報 告 者 (同)メディアウェブ 代表社員
勝本 政裕 会員

五島支部 副支部長 勝本会員の報告です。

●青年経営者会

日 時 未定
会 場 未定
内 容 懇親交流会

9月例会案内

●長崎浦上支部

日 時 9月23日(金) 18:00
会 場 サンプリエール
テ ー マ 行動することで自分を変え、世界を変える
～視覚障害が教えてくれたこと～
報 告 者 (株)ユニバーサルスタイル 代表取締役
初瀬 勇輔 会員(東京同友会)

●長崎出島支部

日 時 9月14日(水) 18:00
会 場 サンプリエール
テ ー マ 未定
報 告 者 (同)ケアネットスクール
山口 奈津江 会員

●大村支部

日 時 9月14日(水) 18:30
会 場 長崎インターナショナルホテル
テ ー マ 人在から人財へ
～人が育つ経営とは～
報 告 者 得田プロセス管理経営 代表者
得田 稔 会員

57歳でSONY(株)の監査部長を役職定年後、管理という経験を会社の中で、人の役に立つ事をやりたいと思いで、山口県の社労士の門を叩き、起業するにあたり、NAGASAKI企業大学を受講し開業。社員教育を中心に活動しているが、現在は企業(ビジネス)マッチングの紹介業もこなしている。大企業とは違い中小企業の経営者は社員との距離は近いが人を育てるという点ではまだまだ苦手意識があるし、準備ができていない方が多く活かされていない。今回の報告では人在から人を活かす人財へ変える為私たち経営者に何が必要なのか得田会員が実践し、経験した事を報告いただきます。

●諫早支部

日 時 9月14日(水) 17:00～18:00 食事、
18:00～20:30 例会
会 場 学校法人 鎮西学院 長崎ウエスレヤン大学 校内学生食堂
テ ー マ 今までの経営と、これからのビジョン！
～何のために仕事をするのか～
報 告 者 (有)ワイエヌコンサル 代表取締役
横田 耕詞 会員(島原支部)

8月理事会 議事録 抜粋

8月4日(木) シーハットおおむら

開会挨拶ー松尾代表理事

7月28日福岡同友会相談役の中村さんの書籍出版記念パーティーに参加しました。330～340名程で中同協鋤柄会長をはじめ、九州の代表理事も全員招待され、なぜそこまでされるのかと思いましたが本を読んで納得しました。同友会のおかげで自社経営が変わり、その恩返しだという事です。明日は大分同友会で経営者と幹部の共有塾という講座で報告をします。仲間を増やし、地域と自社を良くするためにがんばっていきましょう。

仲間づくりについて

ー1名の入会、4名の退会、2名の取下げを承認

西山仲間づくり委員長総括ー(第1クールを終えて支部賞およびスポンサー賞の発表)

期首に比べて結果的に数字は伸びていないが今、各支部に「なぜ仲間づくりをするのか」伝えている。退会が多いことが課題と思うが大村での経営フォーラムにおいてオブザーバーを多数呼び込み大成功に終わることで年度末には700名を達成するイメージを持っている。例会やグループディスカッションの素晴らしさを伝え、自ら入りたいという環境をつくりましょう

(松尾代表理事より)会う人に同友会を知らない事がもったいないという意識で声をかけましょう。入会後どうしても合わない人は退会するが入って良かったと思う方もいらっしゃる。同友会に入会していただくというチャンスを差し上げるという意味でとにかく声をかかえることが大事。鹿児島も二桁増でがんばっている。全国に「鹿児島の知り合いを紹介してほしい」という案内も作成している。私たちは地元地域で仕事をしている。地域と共にがんばろうという声かけ運動をお願いします。

※その後第1クルールの支部賞、スポンサー賞を表彰

支部賞1位…島原支部、2位…北松浦支部、3位…大村支部

スポンサー賞1位…横田耕詞会員(島原)、2位…前川会員(佐世保)、3位…立木会員(北松浦)

(支部賞およびスポンサー賞横田島原支部長より)島原は同友会に入会することで地域が良くなるという確信がある。強制的に入会を促さずまずは例会に参加いただく事が大切。オブザーバーを大事にし、入会することで自社、地域がよくなると信じて活動している

協議・承認事項

1)第23回経営フォーラムについて

(前回までの決定事項)

10月6日(木)シーハットおおむら、記念講演ー法政大学坂本光司氏、4分科会、懇親会会場はパークベルズ
テーマ案

「長崎の明日(みらい)を切り拓くのは、人を生かす経営の実践だ!!」

・組織図

・行程表

	第1分科会 (経営戦略)	第2分科会 (社員共育)	第3分科会 (障がい者雇用)	第4分科会 (経営指針) ※見学分科会
報告者	熊本同友会 田中 芳和 会員	長崎出島支部 土井 幸喜 会員	大村支部 宮田 正一 会員 きらく大村 丸山 和美 氏	大村支部 徳田 信義 会員
座 長	熊本同友会 田崎会員	長崎浦上支部 松本 一孝 会員	長崎出島支部 中村 公 会員	大村支部 金井 政春 会員
室 長	大村支部 竹中 会員	大村支部 吉尾 会員	大村支部 北村 会員	大村支部 出口博 会員

・各支部動員数(8/4現在)

支部	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目標	35	35	65	52	38	45	25	5	300
会員登録	9	10	39	16	7	21	3	2	107
オブ登録			4	2					6
合計	9	10	43	18	7	21	3	2	113

・予算案(参加費7,000円、名刺広告代2,000円×133口を含む)

・チラシ案

・各分科会報告テーマ

第1分科会…「経営指針の作成と自己と自社の成長」～我社の経営戦略は社員の力の集結につきる～

第2分科会…ミッション経営の実現～人は「何を」ではなく「なぜ」で動かされる～

第3分科会…小さな一歩を踏み出しました～初めての障がい者雇用～

第4分科会…経営指針～豆腐業会ナンバーワン企業を目指して～

・記念講演進捗状況(謝辞：平湯前代表理事もしくは金井副代表理事)

※調整中

・懇親会アトラクション(DoCoSoY竹松ゆかた組)

・当日スケジュール

・名刺広告について、最大2枠までとし名刺のみを掲載する

・懇親会を立食形式とする

(今回提案分)

・名刺広告の名称について、「協賛」とする。

・第4分科会は見学分科会のため、12：30集合とする

→上記提案分を承認および確認。第4分科会に関して、他支部からバスで参加の場合時間調整が必要。

(松尾代表より)全国大会に参加できない会員のための経営フォーラム。近い場所で開催されるので支部長を中心にぜひよろしくお願い致します

2)9月10日(土)役員研修会について

(前回までの決定・確認事項)

・9月10日(土)13：00～道具屋にて開催

・①同友会の歴史と理念…泉相談役、②企業内実践と企業づくり…金井副代表 ③それらを受けて総括と役員の役割、同友会の組織づくり…松尾代表からそれぞれ報告いただく

・式次第、予算案

・1部のまとめを辻村副代表理事

(今回確認分)

・8月理事会後正式な案内を流し本格的な動員を図る

・各支部役員会で出席の声かけを行う

8月16日(月)15：00～事務局にてシミュレーションを開催。

→上記を確認

(担当三役:金井副代表より)役員としての自覚を持ち、ぜひ役員が会を引っ張るという意識を持って多くの参加をお願いします

※(三役会時の意見として)

役員研修会なので役員が参加しないと意味がない。トップリーダーとして支部長がしっかり先導し動員を依頼する。またその他の意見として、行事が多くなり案内のメールが多いという声も上がっている。長崎同友会の方向性などを再確認するタイミングに来ているのではないかと。検証した結果、現状の行事、イベントが必要であり、かつ案内も必要であると結論づけばそれは問題がないかと思う。今後の上記に対して役員の方がどのように思っているのか討論してもいいのではないかとと思う

→上記の意見を確認。補足として、県および支部の委員会活動が活発になり、様々な行事、イベントが増えてきている。この傾向は非常にいいが、その分県全体に案内を流すケースも増えているため上記のような意見も出ているのではないかとこの事をご理解ください

3)来期役員選考委員会の委員承認について

→理事選考規定に則り理事選考委員の協議

※来期の副代表理事および全研実行委員長候補について三役会で協議中。

→規定に則り理事選考委員を承認。

報告・連絡事項

1)7月県本部・各委員会・各支部等の活動状況について

2)例会について(更なる例会の充実をめざして)ー山口例会委員長

今回の例会委員会は島原支部の例会前に開催しました。島原支部役員会からの提案もあり、①準備段階 ②例会参加 ③懇親会、をそれぞれ見てほしいという内容にそって開催でした。島原支部の例会は準備はもちろん、全体的に完成度が高い内容でした。過去の委員会では他支部の課題を自支部に持ち帰り、ディスカッション時間の拡大やグループディスカッション時のツールなど実践されており、各支部持ち回りで委員会を開催することの意義を感じることができました。また来月の例会案内に関しても全支部の案内をつけており、島原支部の例会に参加できなくても他支部でいい例会があっているという告知を行っている。

3)中同協 主要行事の紹介

4)第28回 中同協 役員研修会(山口)について

→9月23・24(金・土) 山口市にて開催。来期大村での役員研修会のためぜひ参加を

・会費15,000円(懇親会費含む)、定員60名

5)愛媛同友会視察について

→10月24・25日(月・火)の日程は確定。条例の先進事例を視察に

- (政策委員中心)
→先日佐賀で開催された九州・沖縄ブロック支部長・支部役員研修交流会にて学んだ事例を視察予定。今後同友会が中心となり、条例制定後どのようにプロデュースしていくのかを学びに行く。ぜひ参加をお願いします
- 6)「公平な税制をめざして」パンフレットについて
→11月理事会時学習会を開催予定
→中同協として新しく刷新したのも完成。今後は各支部例会にて随時配布予定。同時に趣旨を記載した上でe.doyuにも掲載する
- 7)7月13日(水)特許セミナー参加報告(峰事務局次長)
→大企業が持つ開放特許を利用し、大企業のブランドと特許を使いつつ、中小企業の新商品を開発していくという内容のセミナー。中小企業が新商品を開発する際、開発費用がかかると思うが、すでに特許してある技術を用いることで開発費の削減等に繋がる可能性もある。同友会とも親交がある発明協会の森崎氏が窓口となっており、今後また情報をいただきながら随時会員に向けて発信していく
- 8)7月14・15日(木・金) 中同協 第48回定時総会参加報告
(松尾代表・吉澤支部長・宮田委員長・峰事務局次長)
(松尾代表)エネルギーシフトの取り組みを受け、エネルギー宣言が採択されるなど、エコに関する取り組みが活発になってきている。まずは同友エコに各企業が登録し、自社のエコに対して意識を持つようお願いします
(吉澤支部長)初めて「事務局と役員の関わり」に関する分科会に参加。運動のパートナーである事務局員の労働環境に関して京都荻原専務、石川柴事務局長の報告から、今の長崎同友会事務局員が将来のビジョンをもてるような労働環境を整備することが重要だと感じた。まずは理事会でその認識を共有することも大事。
(宮田委員長)見学分科会に参加。貴重な報告を聞く事ができた。また2日目に特別挨拶としてIPS細胞の山中教授の講話があり、刺激的な内容を聞くことができ、非常に良かった
(峰事務局次長)「戦争と中小企業」分科会に参加。戦時下における中小企業の実態を学ぶことができた。日本は「The last war (一番最近の戦争)は第二次世界大戦」ということを今後何十年、何百年も言い続けていかなければならないという内容が印象に残っている
- 9)7月15日(金)中同協 第1回幹事会参加報告(松尾代表・峰事務局次長)
(峰事務局次長)例年は総会終了後の幹事会は30分程度で終了だった今回はしっかりと議論する幹事会だった。鋤柄会長から問題提起をいただき各地の青年部に関する討論が行われた。鋤柄会長は山口での役員研修会でも報告されるのでぜひ参加をお願いします
- 10)7月15日(金)中同協 広報情報委員会参加報告(吉澤支部長)
→定時総会終了後、オブザーバーとして参加。経営指針作成・実践の手引きをどのように広報していくかという報告があり、理念の成文化、委員会との関わり、役割を学ぶことができた
- 11)7月20日(水)雲仙市商工会 条例制定に関する講演会報告
(宮田委員長)
→島原支部例会で条例に関する報告をしたことがきっかけで雲仙市の商工労政課から依頼された。島原支部数島会員、三田会員、峰事務局次長で

参加。

- 12)7月20～22日(水～金)全国事務局員研修交流会参加報告
(田口事務局員)
→愛知にて2泊3日の研修。エイベックス加藤会員の企業訪問などディスカッションと企業訪問を交えた研修。事務局のメイン業務として企業を訪問し、実践事例などを集約、発信することの大切さを学んだ。また同友会の歴史を学び、理念ができた経緯や背景を学び、何かあったら理念に立ち返ることを再認識できた
- 13)7月29日(金)産業労働部との意見交換会開催報告(宮田委員長)
→共育委員会とのコラボ企画で実施。県から14名、同友会から42名の登録で「人」をテーマにそれぞれ報告、ディスカッションを行った。内容も非常にいい議論が交わされ、懇親会も盛り上がった。行政側の同友会に対する見方も変わってきたと思うので今後も継続して関係を築いていきたい
- 14)7月30日(土)第1回新入社員フォローアップ研修会開催報告
(土井委員長)
→4月の合同入社式を終えた22名のうち、昨年の第1期生2名を含む17名で開催。残念ながら2期生のうち、4名はすでに退職しているが参加の17名は「道をひらく」の書籍を読んだ感想を討論、またビジネスマナーの実践を学という内容で研修を実施。アンケートからも良かったという声も多数いただいたので次回11月の研修に向け再度企画と内容を検討していく

- 15)会費3ヶ月滞納者についてーなし

留意事項

- 1)2017年 中同協役員研修会についてー5月開催予定。今後は代表者会議で進捗を協議する
→大村で開催することを決定(2015年11月理事会)
- 2)2019年中小企業問題全国研究集会(全研)について
ニュー長…立食1000名、椅子800名、分科会対応約5室
ベストウエスタン…立食1000名、椅子900名、分科会対応最大6室
※中同協確認事項最大1000名(上限を設ける)でも全国大会開催可能
→長崎市で開催することを決定(2015年11月理事会)
※実行委員長の検討開始

閉会あいさつー金井副代表理事

各支部、各委員会の活発な活動内容を聞くことができました。我々もこのような状況で労働環境を変えていく必要があるのかもしれませんが。いつどのようになるかわからないからこそ、他の意見を聞き自社の参考にするために同友会に参加しましょう。福岡の中村さんも会社のことを相談し、乗り越えてきたという報告もありました。我々もレベルアップし相談にのれるよう、学んでいきましょう。そのためにも9月の役員研修会に参加しましょう。

※次回日程ー9月理事会 9月1日(木) 19:00～

会員消息

●企業住所等変更

岡村 雅彦 会員 (長崎浦上支部)
新住所: 〒851-0134 長崎市田中町1452
新TEL番号: 095-894-5633
新FAX番号: 095-894-5644

菅原 千代枝 会員 (長崎出島支部)
新役職: 取締役

北村 貴寿 会員 (大村支部)
新会社名: (医)北村理子クリニック皮膚形成外科
新役職: 代表者
新住所: 〒856-0835 大村市久原2丁目902-1
新TEL番号: 0957-47-5515
新FAX番号: 0957-50-0733

初 穂隆 会員 (大村支部)
新会社名: planning Mao
新役職: 代表者

山田 康成 会員 (諫早支部)
新FAX番号: 0957-22-9041

池田 和貴 会員 (大村支部)
新役職: 営業部長

中山 実津雄 会員 (島原支部)
新会社: (株)いろはや
新役職: 代表取締役社長

会 員 数 (8月1日現在)

	浦上	出島	大村	諫早	島原	佐世保	北松浦	五島	合計
目標	138	115	80	100	70	145	55	32	735
期首	113	88	68	73	56	122	44	25	589
現在	109	85	71	71	59	120	44	25	584

退 会 者 (敬称略)

会 員 名	会 社 名	支部名	入会年月
岩 尾 一 広	(有)岩尾石材	長 崎 浦 上	2007年4月交代
杉 岡 和 彦	(株)アイエスエフネットライフ長崎	長 崎 出 島	2016年1月入会
前 田 俊 彦	(有)ヤマトハウジング	諫 早	2014年8月復会
古 田 勝 也	宗教法人 本覚寺	佐 世 保	2014年9月入会